

世界が 懸念していること

2024年3月



GAME CHANGERS



世界が懸念していること

イプソスが毎月実施している「世界が懸念していること調査(世界が懸念していること)」では、世界29カ国で現在最も重要な社会問題や政治問題は何であると考えているのかを調査し、最新のスコアとその背景を10年分のデータをもとに探ります。

このグローバルサマリーレポートでは、世界中で最も懸念されていることを、自国が正しい方向/間違った方向のどちらに進んでいるかという人々の意見と共にご紹介しています。

各国および各懸念事項の調査結果の詳細は、www.ipsos.comでもご覧いただけます。

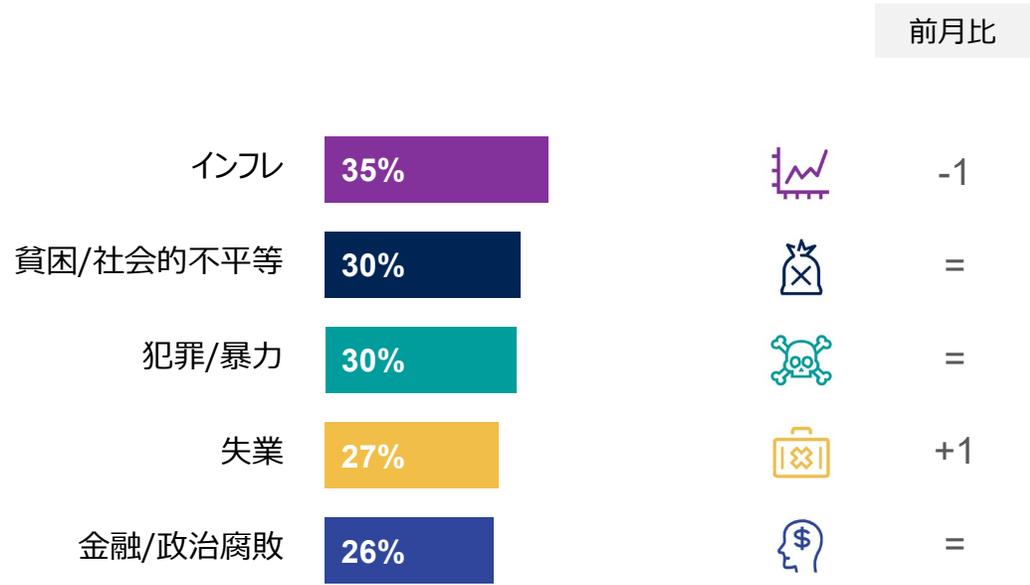
詳しくは Teodros.Gebrekal@Ipsos.comまでご連絡下さい。



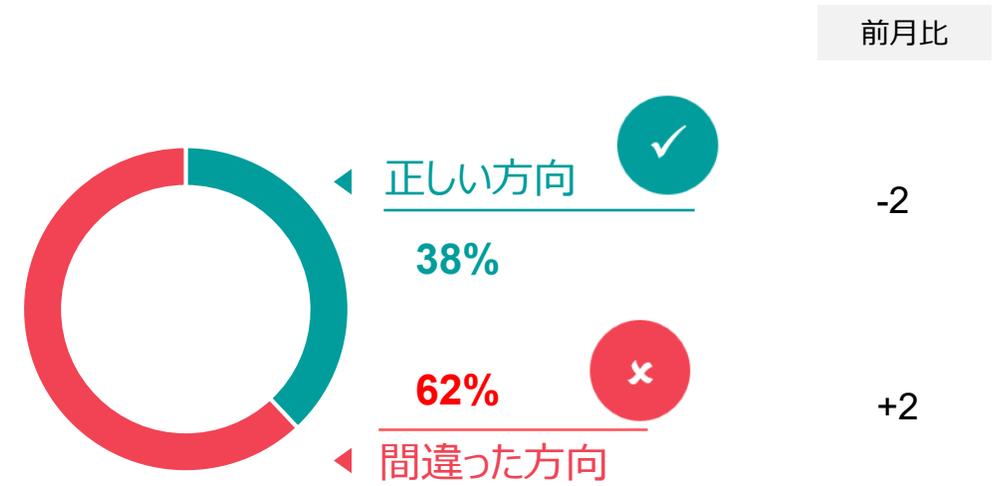
世界が懸念していること 2024年3月

インフレは29カ国で2年連続（24カ月間）のトップであり、今月の平均は35%です。トップ5のその他の懸念事項は、先月からほとんど変化がありません。自国が正しい方向に向かっていると答えた割合は2ポイント低下しています。

Q 次のうち、自国で最も懸念されている3つは何ですか？



Q 自国は正しい方向に向かっていると思いますか、または間違った方向に進んでいると思いますか？



ベース: 調査対象29カ国の16~74歳の代表サンプル23,761人。2024年2月23日~2024年3月8日に調査。
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

2年にわたる生活費への懸念

1 この2年間、インフレが最大の懸念事項となっている

過去24ヶ月連続で、「世界が懸念していること」調査において、インフレが最大の懸念事項となっています。これは、新型コロナウイルスを含む過去のどの問題よりも長い期間です。

2 しかし、懸念はピークに達した – 少なくとも今のところは

2023年2月、29カ国の43%がインフレを自国の最大の懸念事項として選びました。それ以降、懸念は着実に減少しており、2024年3月現在は35%が懸念事項として選んでいます。

3 多くの国にとって、懸念は依然として非常に高い

10カ国が依然としてインフレを最大の懸念事項としており、アルゼンチン、トルコ、カナダ、シンガポールの4カ国では過半数がインフレを懸念事項としています。

4 アルゼンチンは常に最も懸念している

アルゼンチンは2022年11月以降、最も懸念している国です。65%が「懸念している」と答え、他国より10ポイント高く、さらに、アルゼンチン国民のわずか10%しか「経済は良い」と考えておらず、これは29カ国中最低です。

5 所得が高い家庭の懸念が減少している

高所得世帯の37%がインフレを懸念しているのに対し、低所得世帯は34%です。しかし、高所得者の懸念はここ18ヶ月で減少しており、低所得者の懸念は変化がありません。

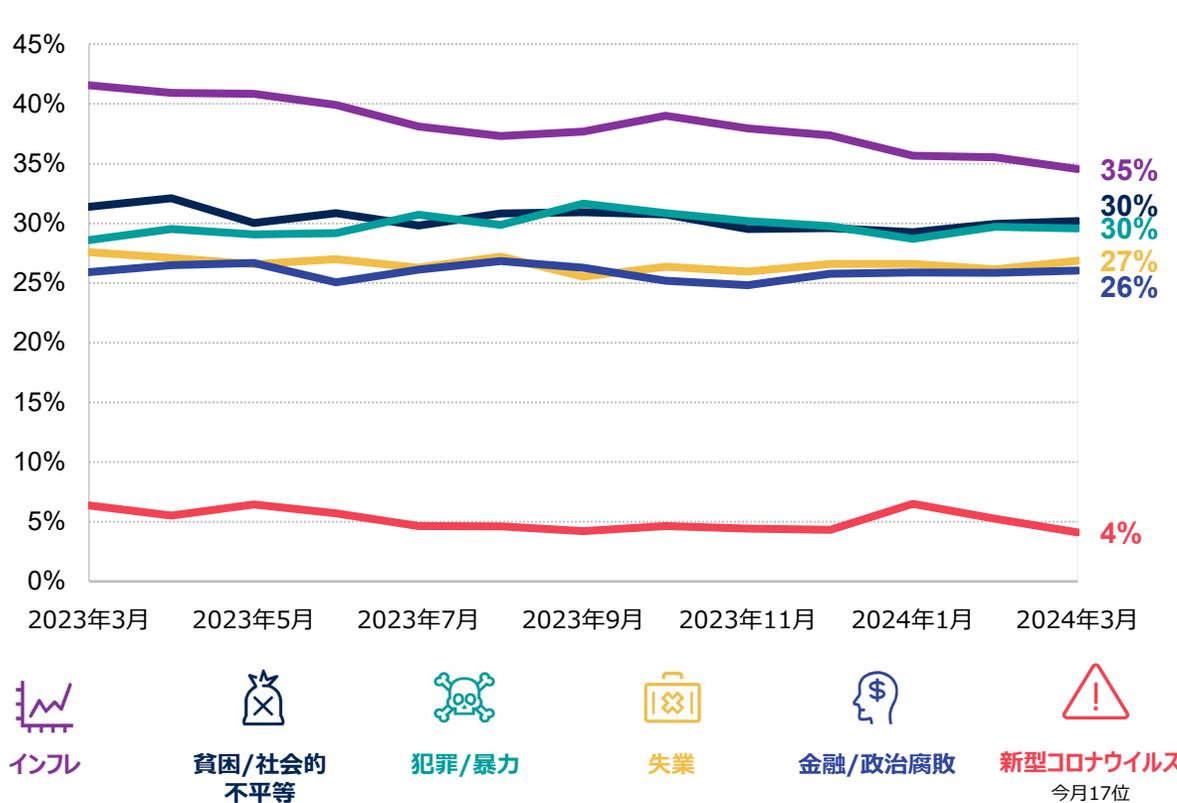
6 世代間の懸念の差はほとんどない

若年層ほど生活費危機で不利になる可能性が高いにもかかわらず、インフレを懸念する傾向は強くありません。35歳未満の36%が懸念を抱いているのに対し、35～54歳では35%、55歳以上では33%です。

世界が懸念していること 12か月のトレンド

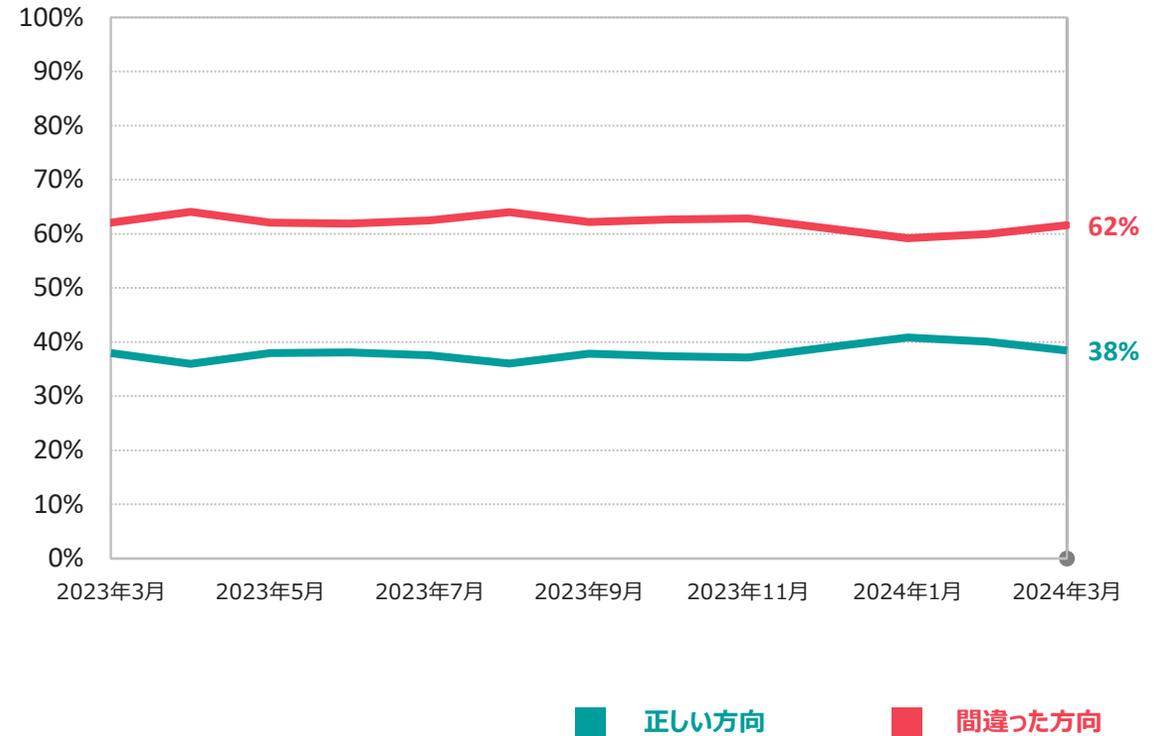
Q

次のうち、自国で最も懸念されている3つは何ですか？



Q

自国は正しい方向に向かっていていると思いますか、または間違った方向に進んでいると思いますか？

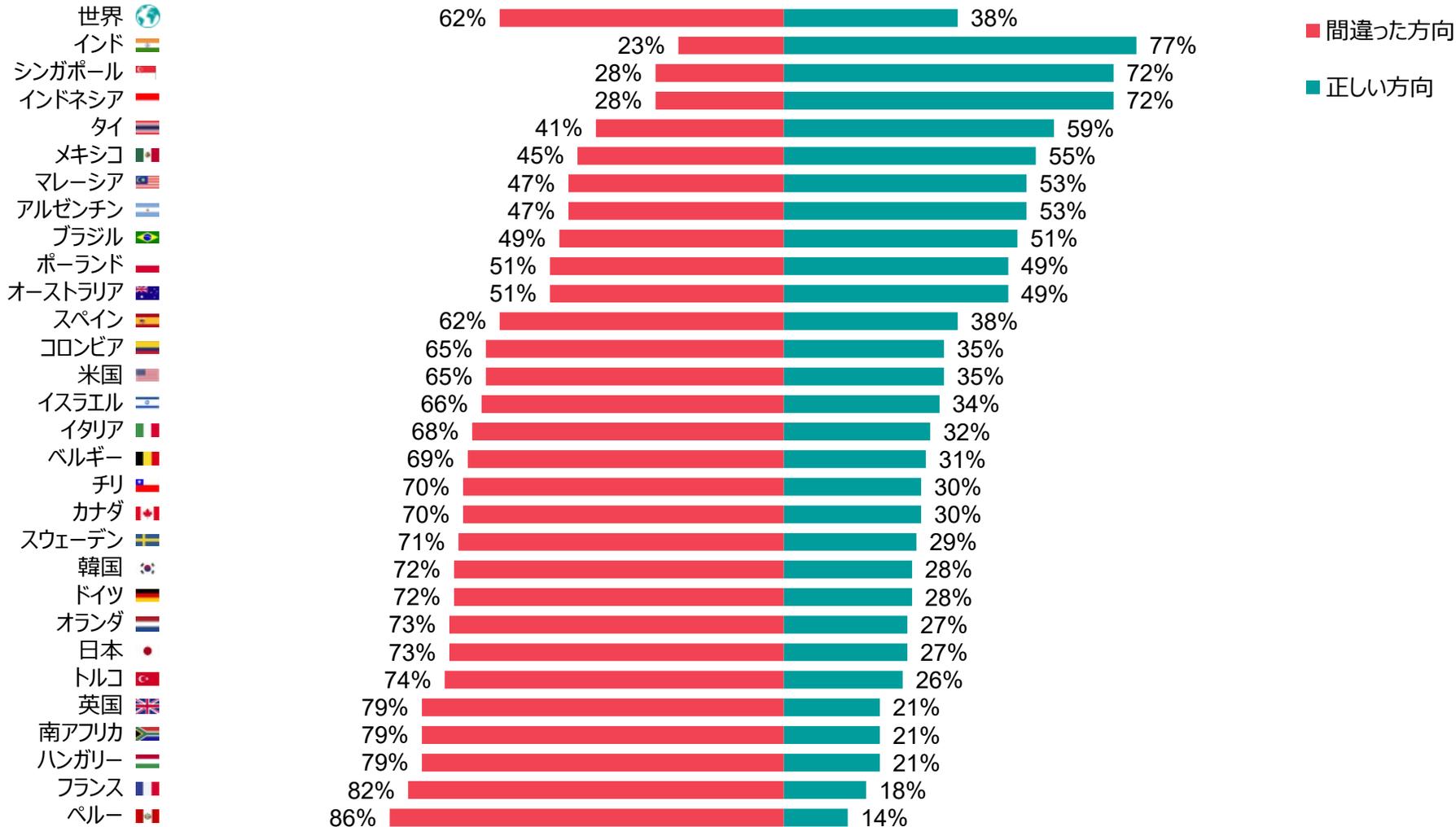


ベース: 調査対象29カ国の16~74歳の代表サンプル23,761人。2024年2月23日~2024年3月8日に調査。
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

各国が進む方向性 全29カ国

正しい方向/間違った方向 モニター

Q 自国は正しい方向に向かっていると思いますか、または間違った方向に進んでいると思いますか？ (2024年3月)



29カ国全体では、自国が正しい方向に向かっていると答えたのは38%で、先月よりわずかに減少しています。

英国は今月、楽観主義が最も落ち込み、14ポイント低下しています。英国では21%が、自国は正しい方向に向かっていると答えています。これは英国にとって2022年11月の16%以来の低スコアです。

フランスは5%減の18%となり、最下位から2番目となっています。2019年4月の「正しい方向」スコアは16%でした。

ヨーロッパの他の地域では、スペイン（38%）とイタリア（32%）がそれぞれ5ポイントと4ポイント上昇しています。

ベース: 調査対象29カ国の16~74歳の代表サンプル23,761人。2024年2月23日~2024年3月8日に調査。

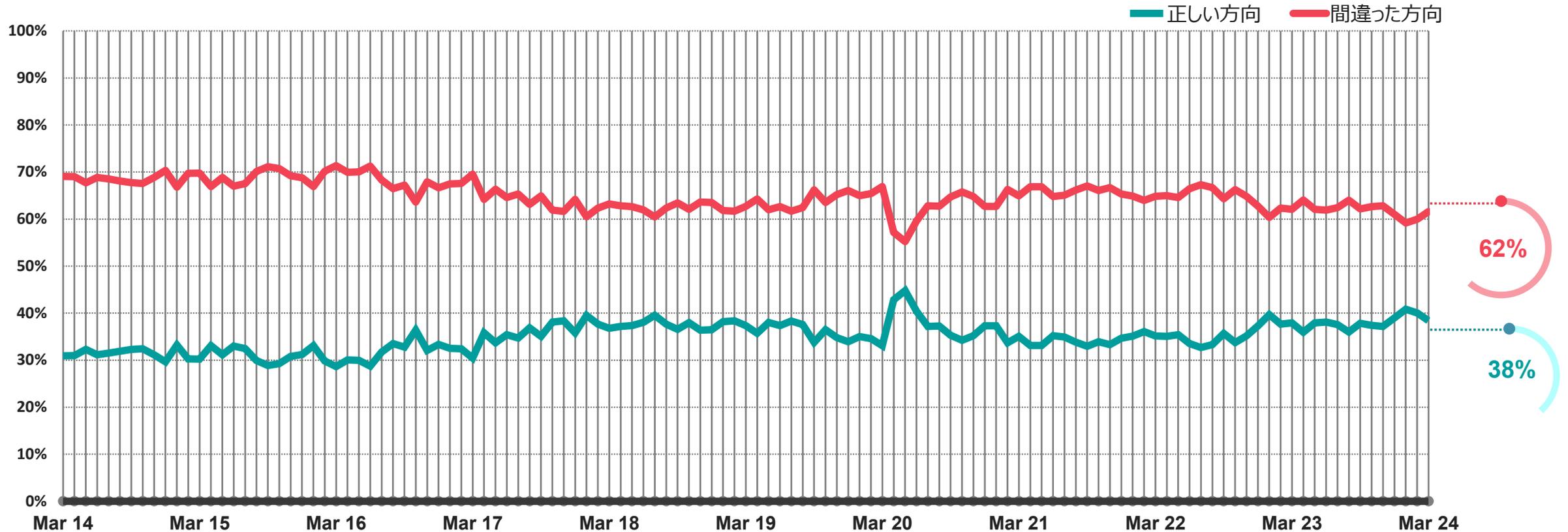
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

Filter: Country: World | Current Wave: Mar 24



世界各国平均：正しい方向/間違った方向

Q 自国は正しい方向に向かっていると思いますか、または間違った方向に進んでいると思いますか？



ベース: 調査対象29カ国の16~74歳の代表サンプル23,761人。2024年2月23日~2024年3月8日に調査。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

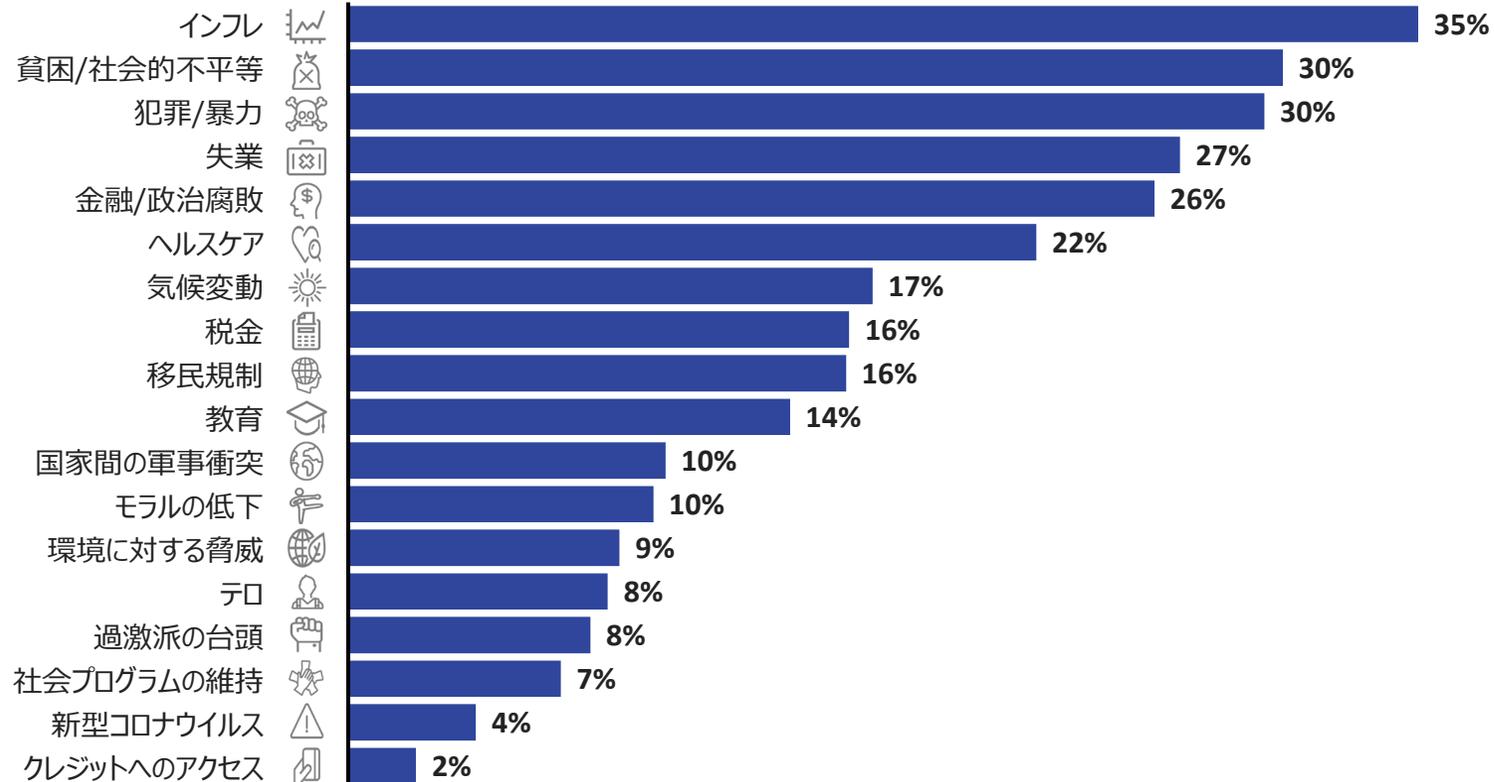
世界が懸念していること ランキング上位の懸念



世界の懸念事項：全18項目リスト

Q 次のトピックのうち、あなたの国で最も懸念されていると思うものを3つ選んでください。

2024年3月の回答 世界各国平均(%)



インフレは2年（24ヶ月）連続で、懸念事項リストのトップです。今月は懸念のレベルがわずかに下がっています。

今月は、ヘルスケアと気候変動に対する懸念がともにわずかに増加し、気候変動は9位から6位にランクを上げています。

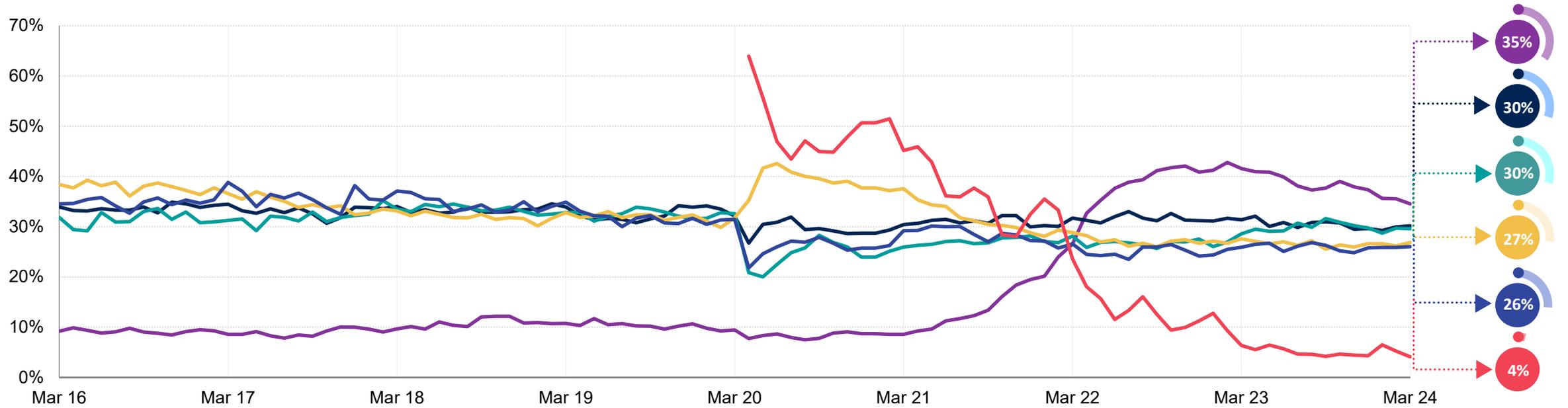
テロへの懸念は現在14位と順位を下げ始めていますが、軍事衝突は10人に1人（10%）で11位にとどまっています。

ベース：調査対象29カ国の16～74歳の代表サンプル23,761人。2024年2月23日～2024年3月8日に調査。
出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

世界の懸念事項：長期トレンド

Q 次のトピックのうち、あなたの国で最も懸念されていると思うものを3つ選んでください。

世界各国平均



インフレ

貧困/社会的不平等

犯罪/暴力

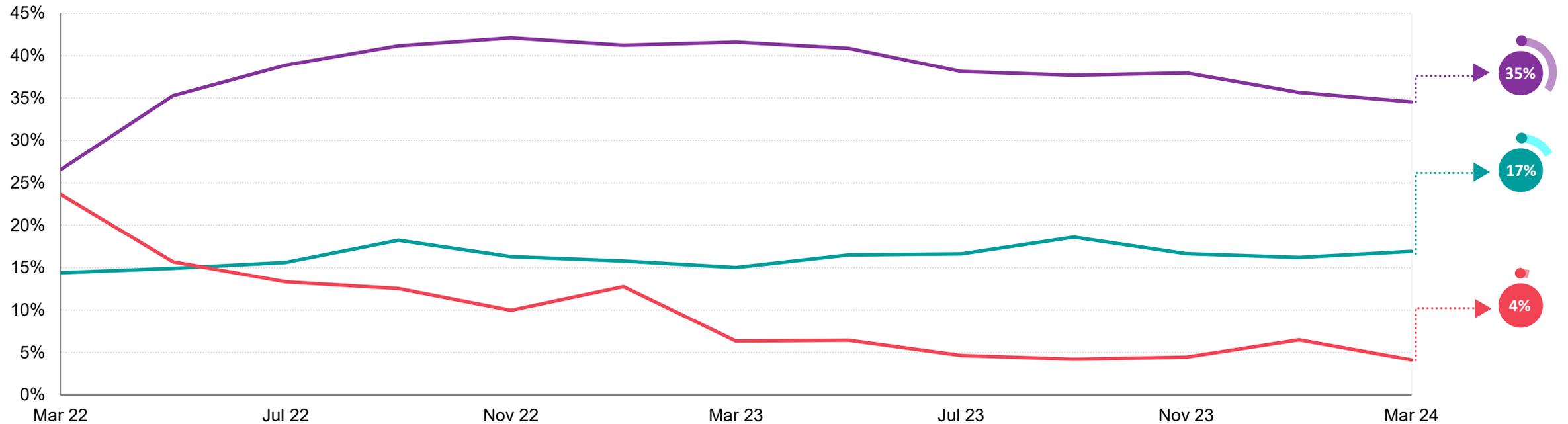
失業

金融/政治腐敗

新型コロナウイルス

ベース：調査対象29カ国の16～74歳の代表サンプル23,761人。2024年2月23日～2024年3月8日に調査。
出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

世界の懸念事項：長期トレンド (インフレ、気候変動、新型コロナウイルス)



インフレ

気候変動

新型コロナウイルス

ベース: 調査対象29カ国の16~74歳の代表サンプル23,761人。2024年2月23日~2024年3月8日に調査。

出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、グローバル各国平均。詳しくは調査手法を参照。

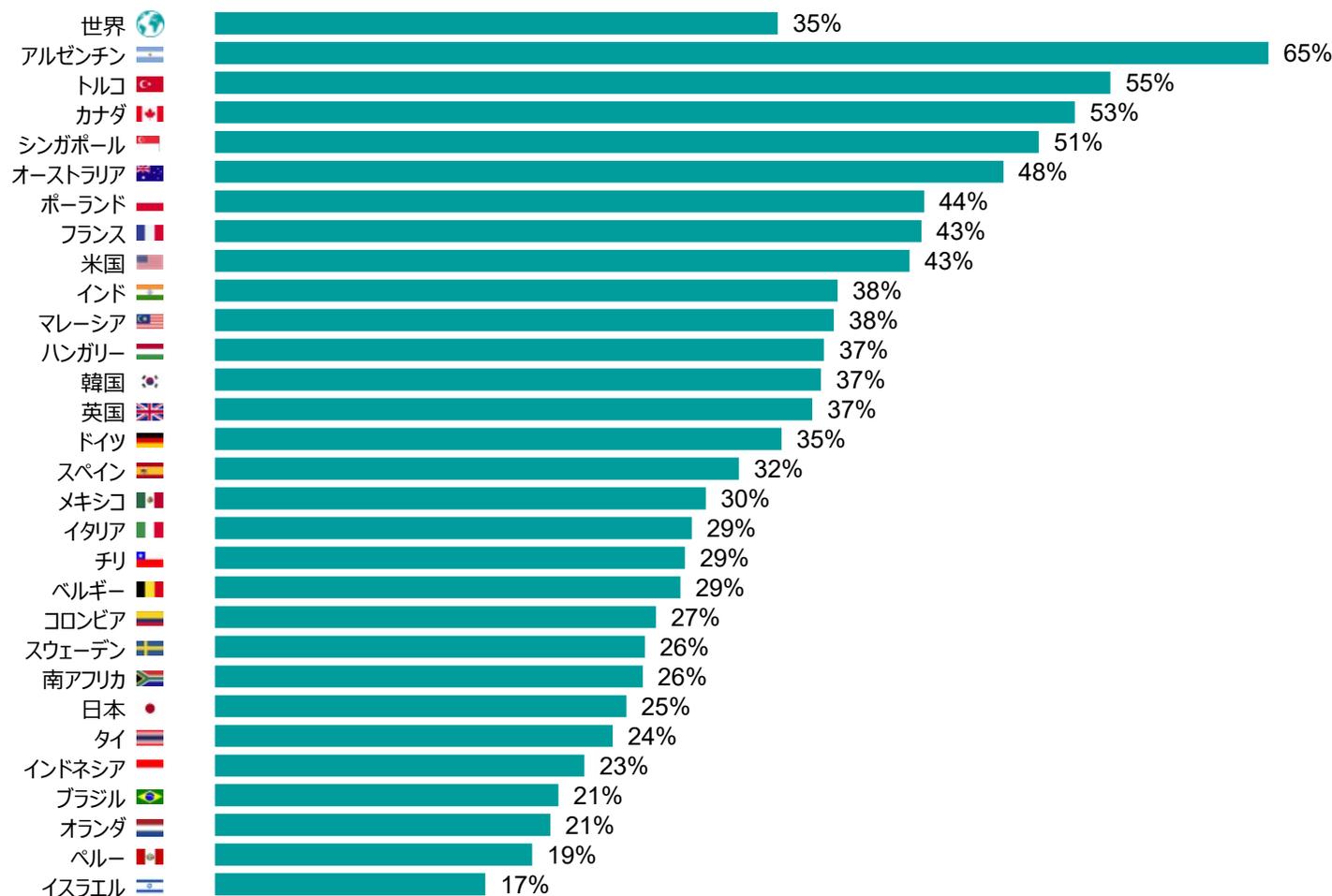
出典: イプソスグローバルアドバイザー調査。新型コロナウイルスは2020年4月に調査に導入。

12 © Ipsos | 世界が懸念していること

Filter: Country: World | Current Wave: Mar 24



1 | インフレ



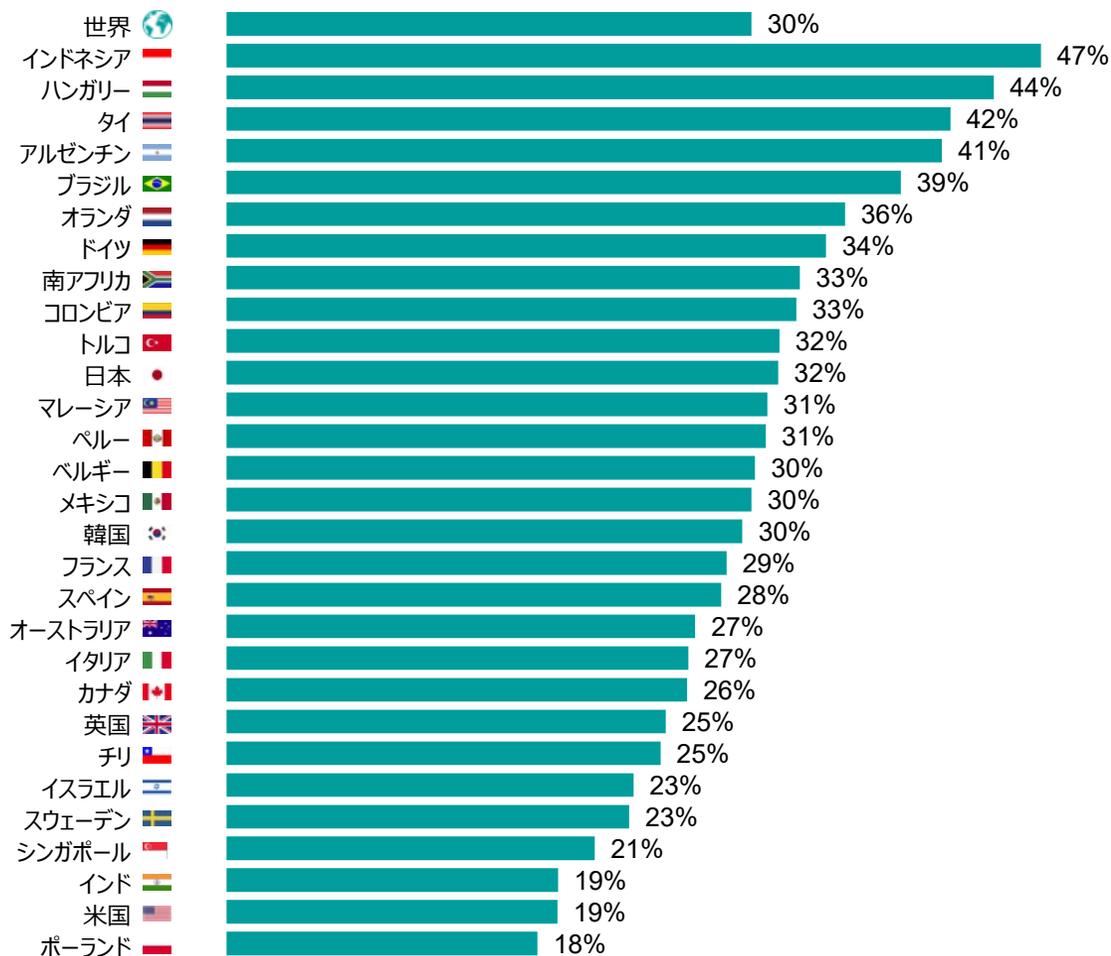
2年経った今でも、インフレは29カ国の中で最大の懸念事項です。2022年3月の懸念は26%でした。翌月には、32%で初めて「世界が懸念していること」調査の第1位となり、以降24ヶ月連続で第1位となっています。

昨年の今頃は42%で、非常に緩やかな減少の最初の月でした。

しかし、インフレを最も懸念している国は、アルゼンチン、トルコ、カナダ、シンガポール、オーストラリア、ポーランド、フランス、米国、インド、ドイツの10カ国で、先月より1カ国減にとどまっています。

アルゼンチンは2024年3月（65%）に最も懸念を感じており、2022年11月以来順位を維持しています。

2 | 貧困/社会的な不平等

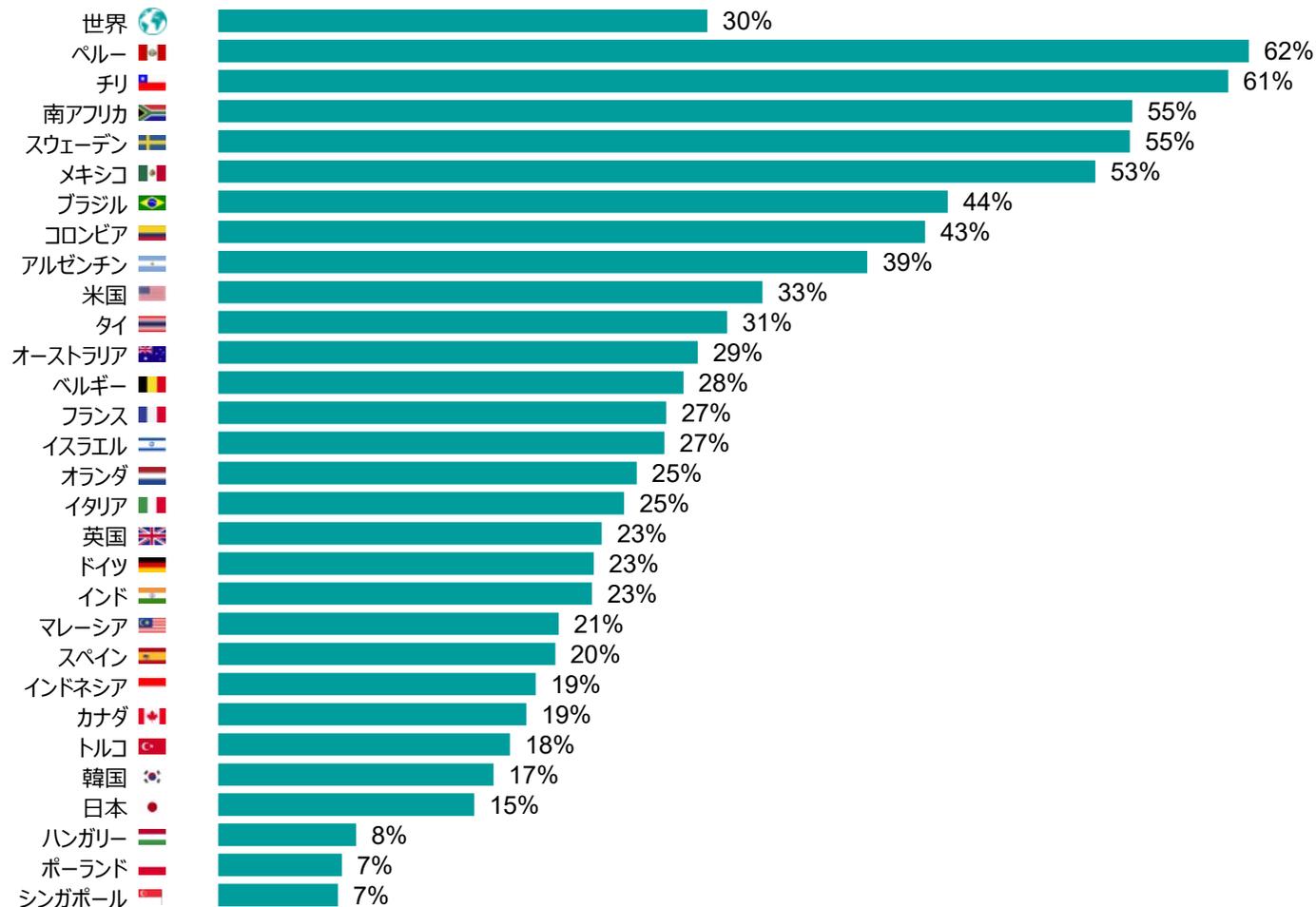


不平等を懸念する声は今月も変わっていません（30%）。不平等に対する懸念のレベルは、ここ数年、ほぼ安定しており、2023年5月以降、10人に3人程度が常に不平等を懸念しています。

現在最も懸念しているのはインドネシアで、ほぼ2人に1人（47%）が不平等を回答しており、先月から若干上昇しています。この懸念事項は他のどの国よりも高いですが、インドネシアにとってのトップの懸念事項ではありません。インドネシアの55%が金融/政治腐敗を懸念しています。

イスラエルでの懸念は3月に5ポイント上昇し、不平等が問題だと答えたのはほぼ4分の1（23%）に達しています。2023年12月は16%と、イスラエルで最も低い懸念水準となっています。現在は、2023年に見られたようなレベルまで戻りつつあります。

3 | 犯罪/暴力

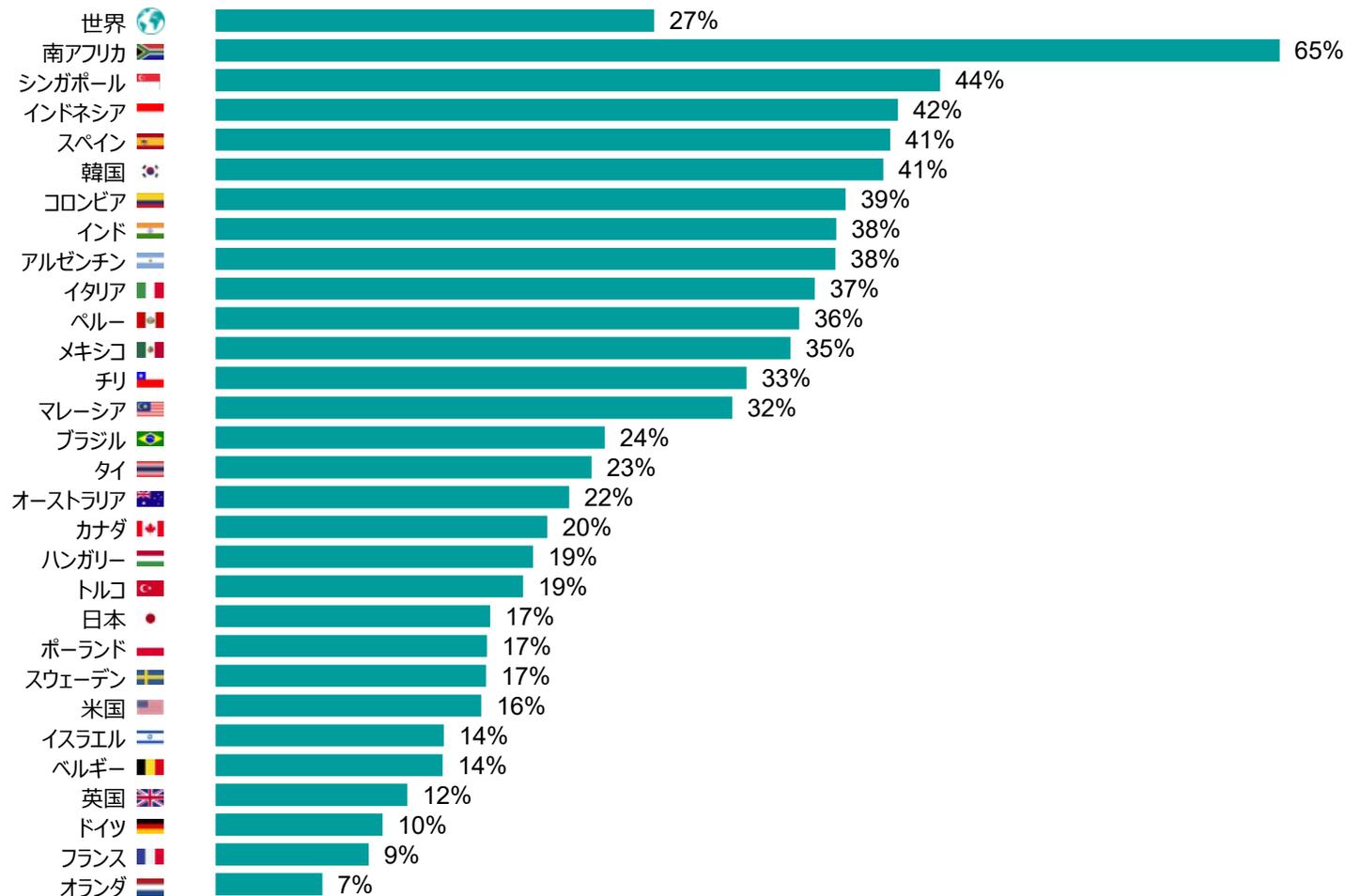


10人に3人（30%）が自国での懸念事項として犯罪/暴力を挙げており、先月と変化はありません。

犯罪/暴力はラテンアメリカで顕著な問題です。自国の最大の懸念事項としている6カ国のうち、5カ国はラテンアメリカ諸国であり、ペルー、チリ、メキシコ、ブラジル、コロンビアです。アルゼンチンでは、39%が犯罪/暴力を回答しており、同国の3番目に大きな課題となっています。

チリのスコア（61%が「懸念する」と回答）は、先月の「世界が懸念していること」調査の犯罪の最高記録から8ポイント低下しています。同様にメキシコも、先月は2番目に懸念を感じていた国でしたが、10ポイントの大幅減少があり、半数強（53%）にとどまっています。

4 | 失業

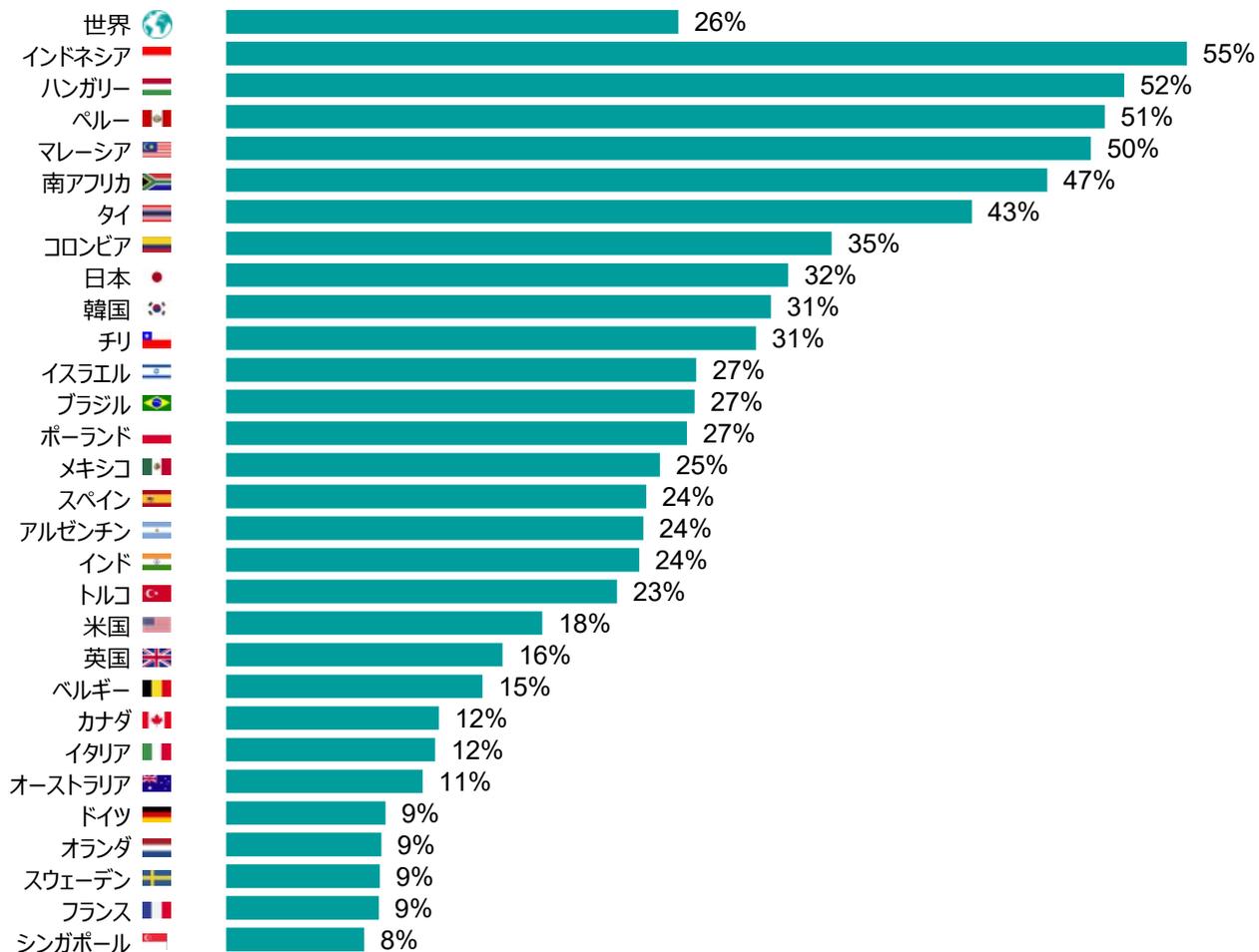


4分の1強（27%）が今年3月の懸念事項として失業を挙げており、先月よりわずかに増加しています。

南アフリカ（65%）、スペイン（41%）、韓国（41%）、イタリア（37%）の4カ国が自国の最大懸念事項として挙げており、先月より1カ国増えています。韓国では、失業への懸念が若干上昇し、インフレを抜き、現在自国の最大の懸念事項となっています。これは韓国にとっては低い水準であり、2018年10月時点では70%が懸念事項として挙げていました。

スペインでの失業の回答率は今月も上昇を続け、6ポイント増の5分の2（41%）に達しています。これは2023年6月以来の高水準です。

5 | 金融/政治腐敗

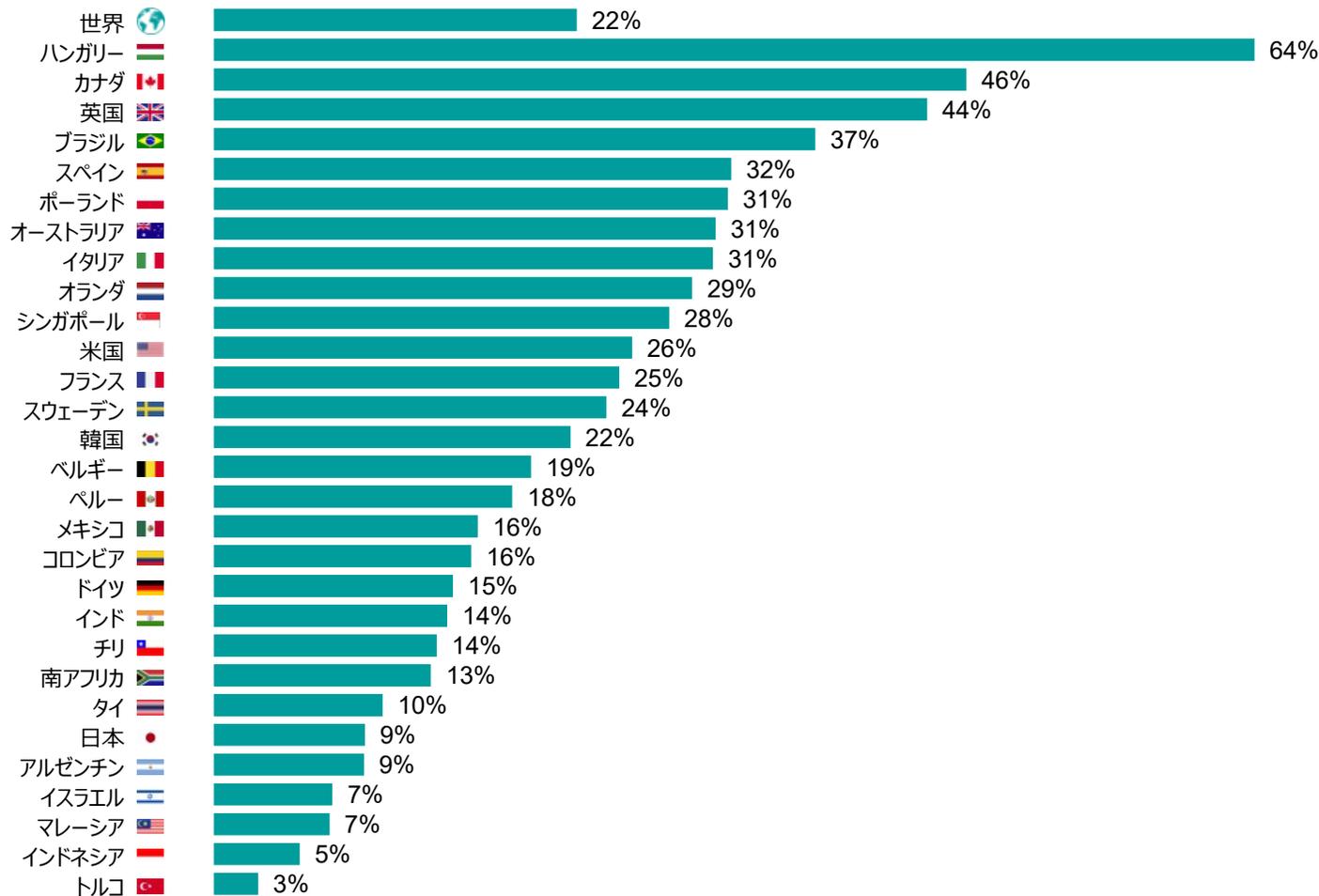


29カ国の4分の1（26%）が、自国の懸念事項として金融/政治腐敗を挙げており、先月と変化はありません。

同じアジア太平洋の4カ国が、2024年に入ってから最大の課題として金融/政治腐敗を挙げています。インドネシア（55%）は3ポイント下がり、日本（32%）もわずかに下がっています。一方、マレーシア（50%）は3ポイント、タイ（43%）は5ポイント上昇しています。

注目すべきは、ハンガリーでは、金融/政治腐敗を回答する割合が11ポイントと大幅に上昇し、半数強（52%）となったことです。これは2023年2月の52%以来の高水準です。

6 | ヘルスケア



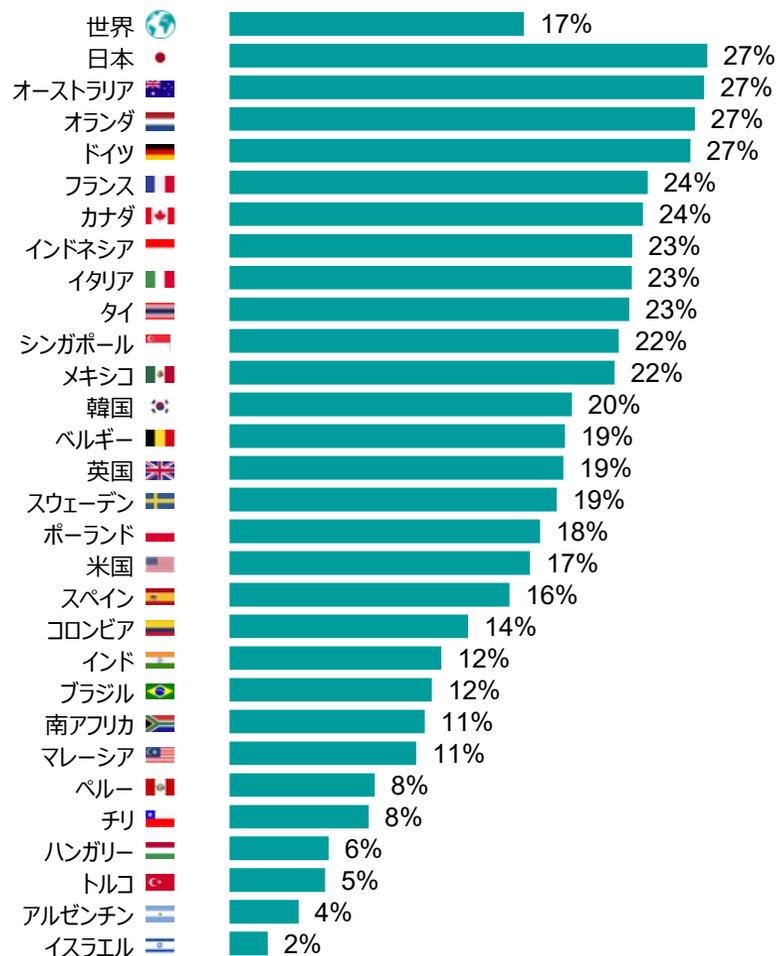
自国のヘルスケアが懸念だと答えた割合は若干上昇し、5分の1（22%）をわずかに上回っています。

今月、英国の最大の懸念事項はヘルスケアで、6ポイント上昇し5分の2（44%）を超えています。過去を見ると、これは2023年2月（47%）、2018年2月（49%）に次いで、英国にとって過去3番目に高いスコアです。

ハンガリー（64%）もこの問題を最大の懸念事項としており、2023年9月以来続いています。

2月の全国的な医師ストライキの後、韓国ではヘルスケアに対する懸念が最も急増し、16ポイント増の4分の1弱（22%）に達しています。これは、本調査の記録では韓国の最高レベルです。

7 | 気候変動

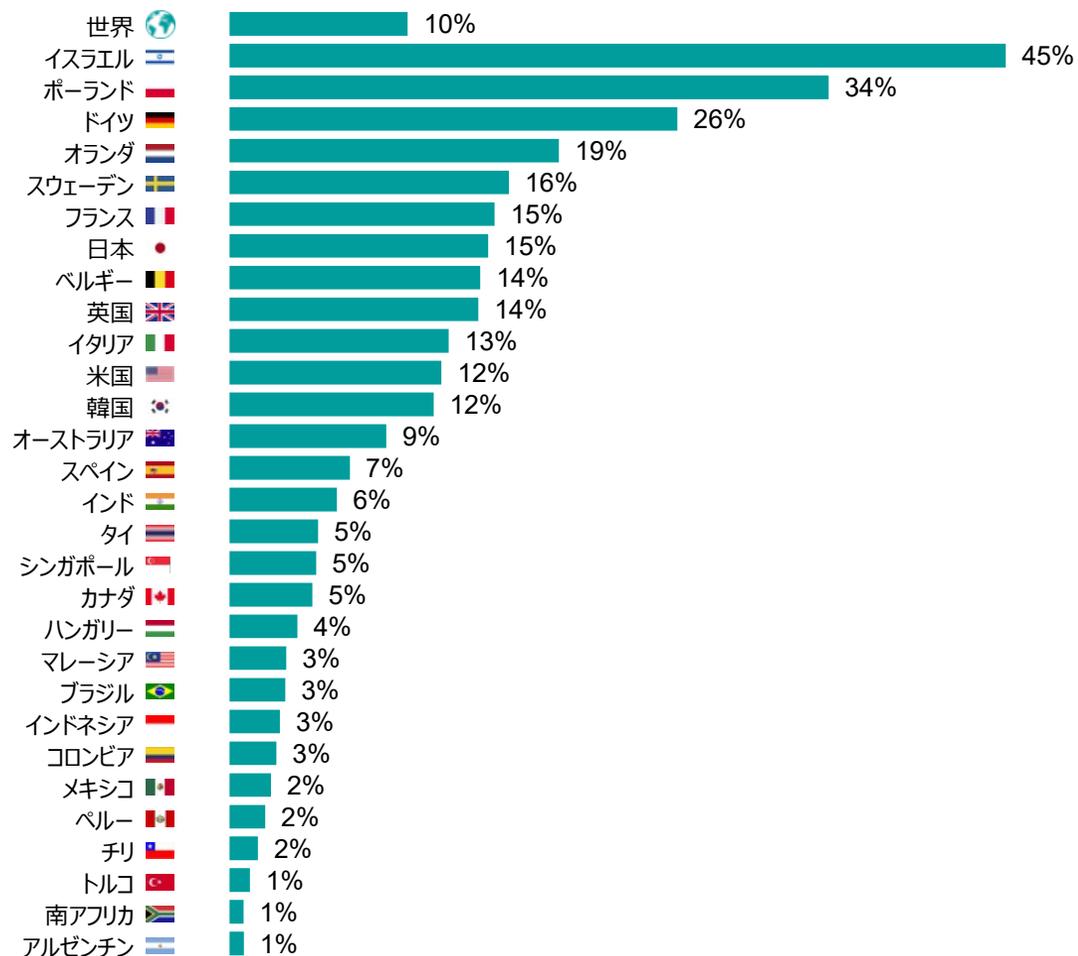


29カ国で気候変動を回答した割合は17%で、2月よりわずかに上昇しています。先月は9位でしたが、現在は7位です。

アジア太平洋の国々は、他の国々よりも懸念しているようです。日本では4分の1強（27%）が懸念を抱いていますが、これは先月と変わりません。オーストラリアは、最も懸念のレベルが高い国のひとつで、27%が懸念しています。インドネシアとタイはそれぞれ3ポイント、7ポイント上昇し、23%まで上昇しています。同様にマレーシア（11%）も5%上昇しています。

最も大きな変化を経験したのはコロンビアです。先月は過去最高を記録したが、現在は11%減の14%となっています。

11 | 国家間の軍事衝突



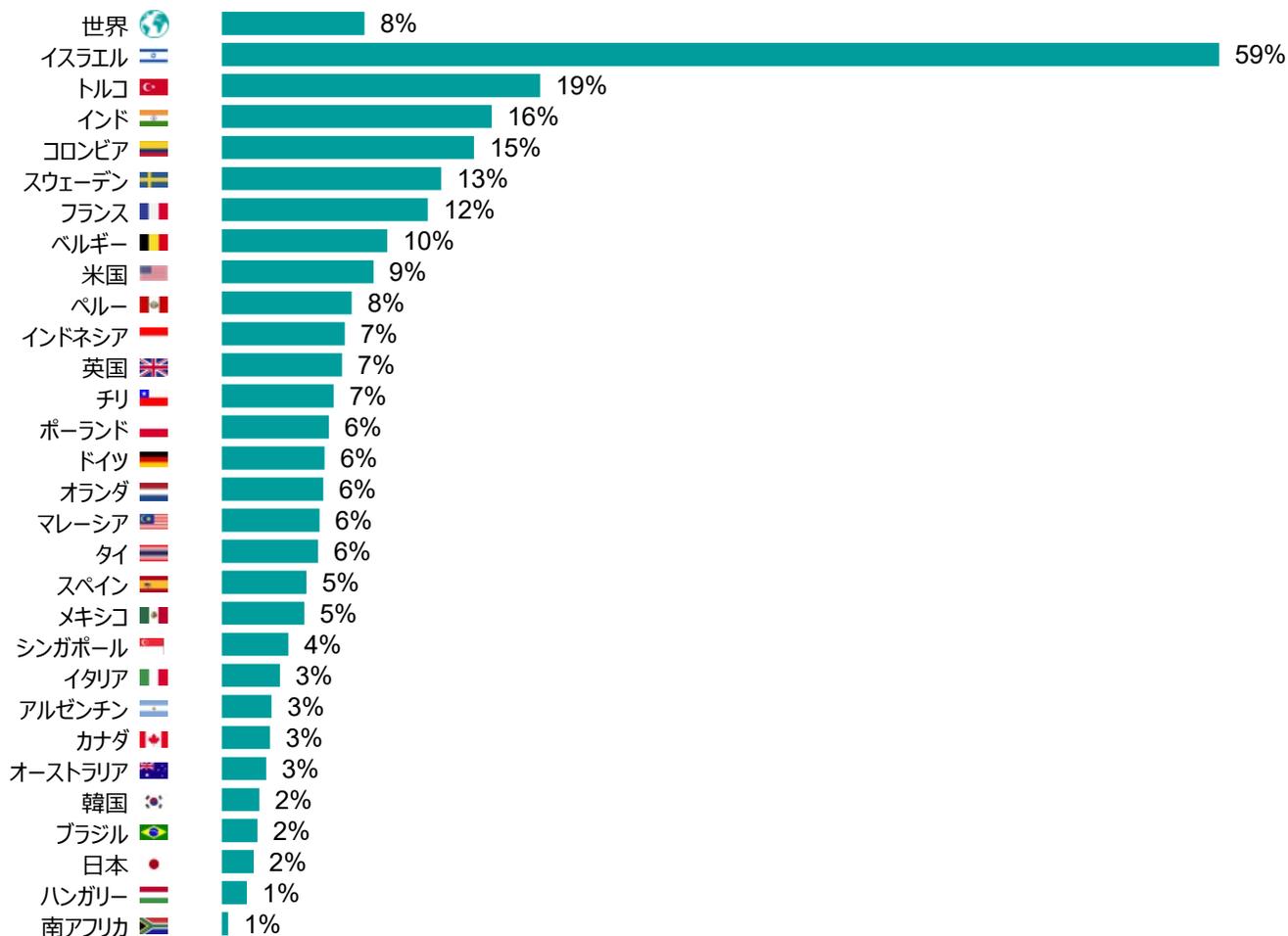
29カ国の10人に1人（10%）が国家間の軍事衝突を選んでおり、先月と変化はありません。

イスラエルは先月、45%が国家間の軍事衝突を最大の懸念事項として挙げ、最高レベルを記録しました。今月のスコアは2月と変わらず、最高レベルを維持しています。

一方、ヨーロッパ全体では、いくつかの国の懸念レベルが着実に上昇しています。ポーランドでは、5ポイント増えて3分の1強（34%）となっており、ポーランドの2番目の懸念事項となっています。ドイツでの懸念も高まっており、6ポイント上昇して4分の1（26%）となっています。最後に、フランス（15%）が5ポイント、ベルギー（14%）が4ポイント上昇しています。

英国は今月6%減の14%で、ヨーロッパでは異常値となっています。

14 | テロ

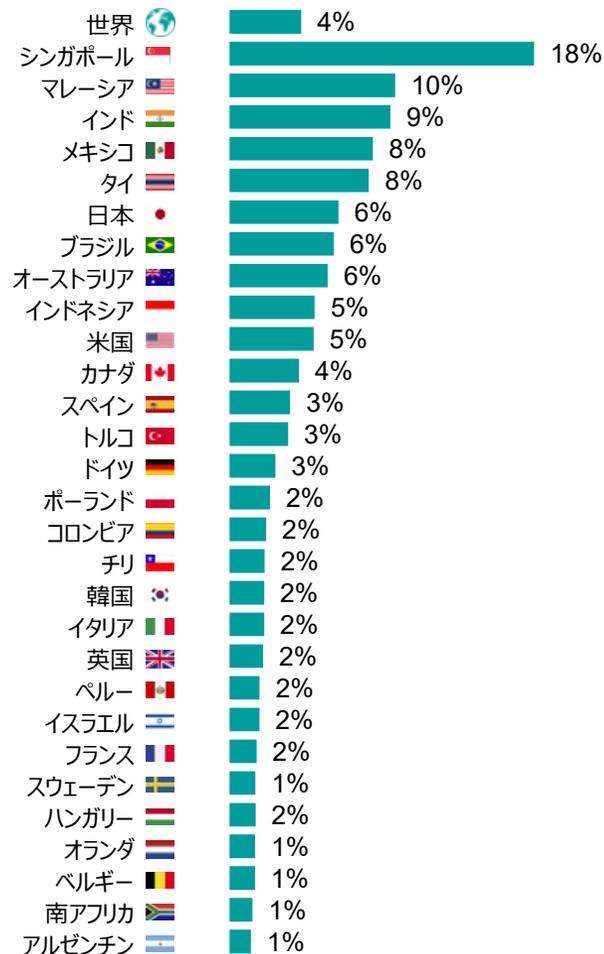


テロの回答は2023年11月の12%をピークに減少しています。2024年3月、自国に影響を及ぼす最重要問題のひとつがテロだと答えたのはわずか8%です。

今年に入って最初の2ヶ月間は減少していたイスラエルの懸念は、現在再び上昇し、6ポイント増の5分の3（59%）に達しています。これはイスラエルでは大差をつけて一番の懸念事項であり、軍事衝突がそれに続きます。昨年の今頃は40%でした。

ベルギーでも懸念が高まり、4ポイント増の10人に1人（10%）となっています。

17 | 新型コロナウイルス（COVID-19）



新型コロナウイルスへの懸念度は2023年12月時点の水準に戻り、20人に1人弱（4%）が懸念しています。

今月は、10人に1人以上が新型コロナウイルスを回答した国は2カ国しかありません。シンガポール（18%）が最も懸念しており、4ポイント増加しています。マレーシア（10%）は、わずかな減少にもかかわらず2位です。

昨年今頃、新型コロナウイルスを挙げた割合は6%でした。ちなみに、2022年3月の各国平均は4分の1（24%）でした。

経済への注目

自国の経済状況

イプソスの「世界が懸念していること調査(What Worries the World)」と並び、毎月実施されている「世界消費者信頼感調査」は、29カ国の一般消費者を対象に、国と個人のレベルにおける経済と金融について調査を実施しています。

以下のセクションでは、このデータの一部を用いて、今月の「世界が懸念していること調査」レポートの背景を説明しています。これは、国民が自国の現在の経済情勢をどのように評価しているかを示すものです。

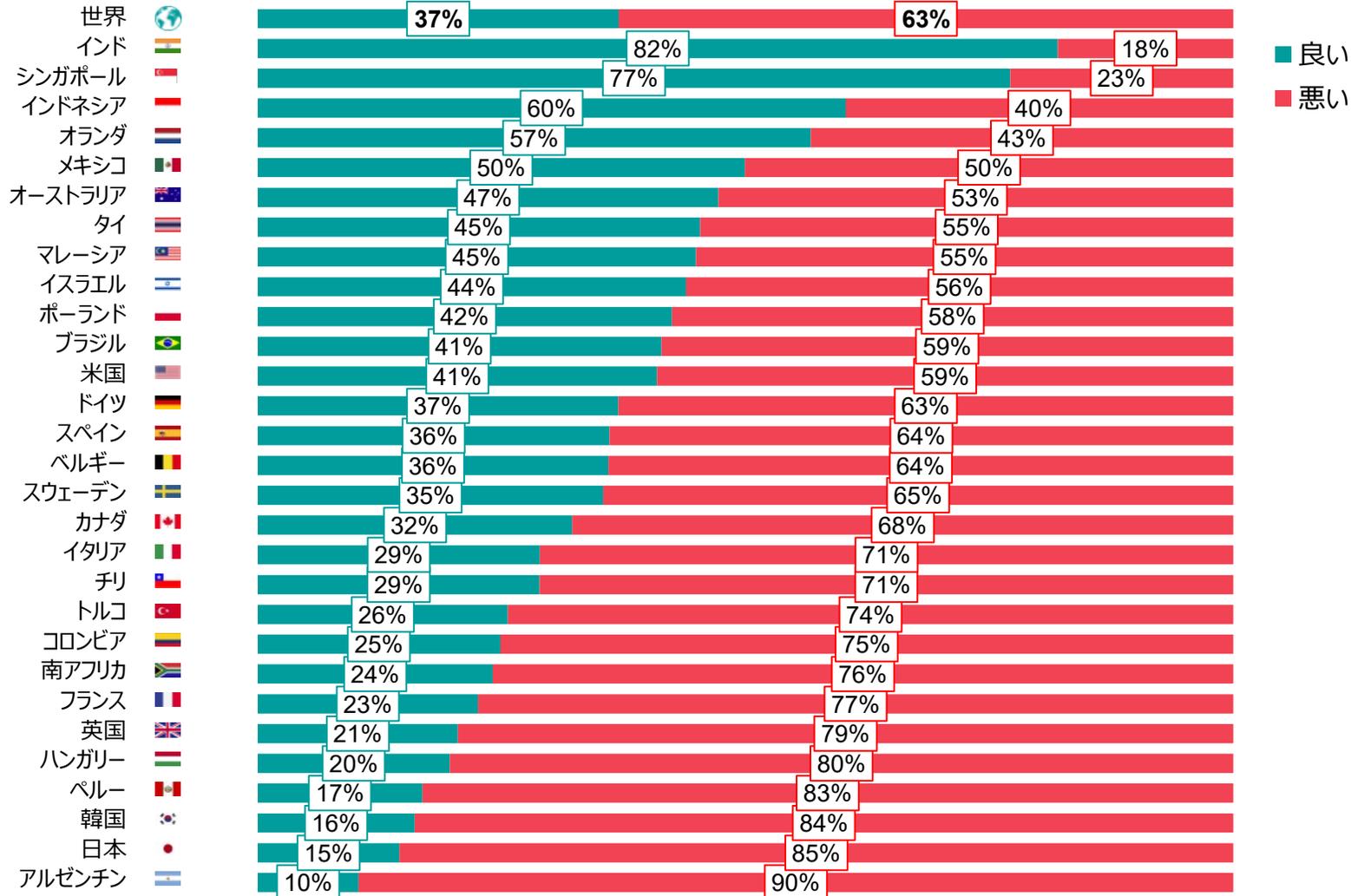
詳しくは Emilios.Louca@ipsos.com までお問い合わせください。



現在の経済状況

経済に関する認識の詳細については、[イプソスグローバル消費者信頼感調査](#)をご確認ください。

Q 現在の自国の経済状況をどう評価しますか？



世界各国平均では、自国の現在の経済状況を「良い」と答えたのは37%で、先月から変化はありません。

今月最も増加した国は、イスラエル（8ポイント増、44%）、シンガポール（7ポイント増、77%）、オーストラリア（6ポイント増、47%）です。

逆に、「良い」スコアが大幅に下がった国が2カ国あります。英国は最も落ち込みが激しく、12ポイント減の21%です。同様にタイも11%減の45%です。その他の注目すべき国はマレーシア（45%）とインドネシア（60%）で、ともに7%減となっています。

2年間10人に1人を下回っていたアルゼンチンは、4ポイントの微増で10%となっています。

2024年3月、アルゼンチンの「良い」は2年ぶりに10%まで上昇している。

現在の経済状況：アルゼンチン

Q 現在の自国の経済状況をどう評価しますか？
(「非常に良い」「ある程度良い」の割合)



ベース：アルゼンチンの16～74歳成人約500人の代表サンプル。2013～2024年に調査。
出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

現在の経済状況：オーストラリア

先月の急激な落ち込みの後、オーストラリアのスコアは6ポイント増と回復している。

Q 現在の自国の経済状況をどう評価しますか？
（「非常に良い」「ある程度良い」の割合）



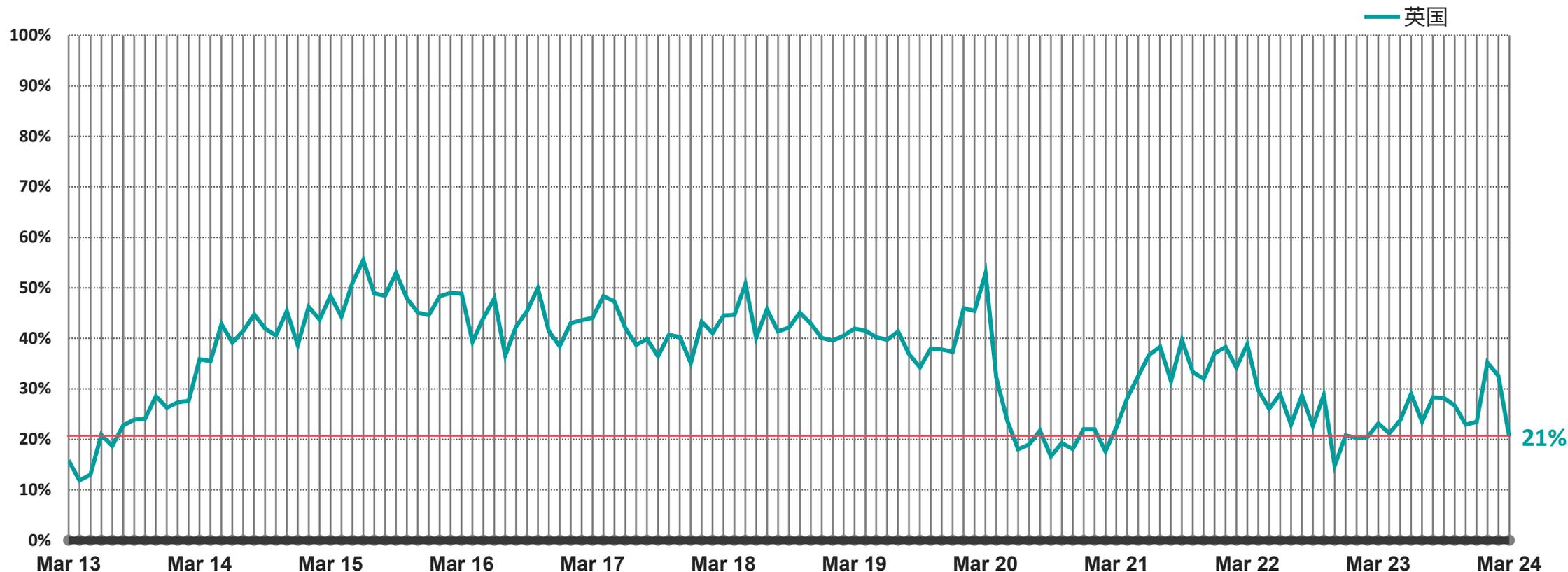
ベース：オーストラリアの16～74歳成人約1000人の代表サンプル。2013～2024年に調査。

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

現在の経済状況：英国

今月は12ポイント低下し、2023年4月以来の英国での最低スコアの21%となっている。

Q 現在の自国の経済状況をどう評価しますか？
(「非常に良い」「ある程度良い」の割合)



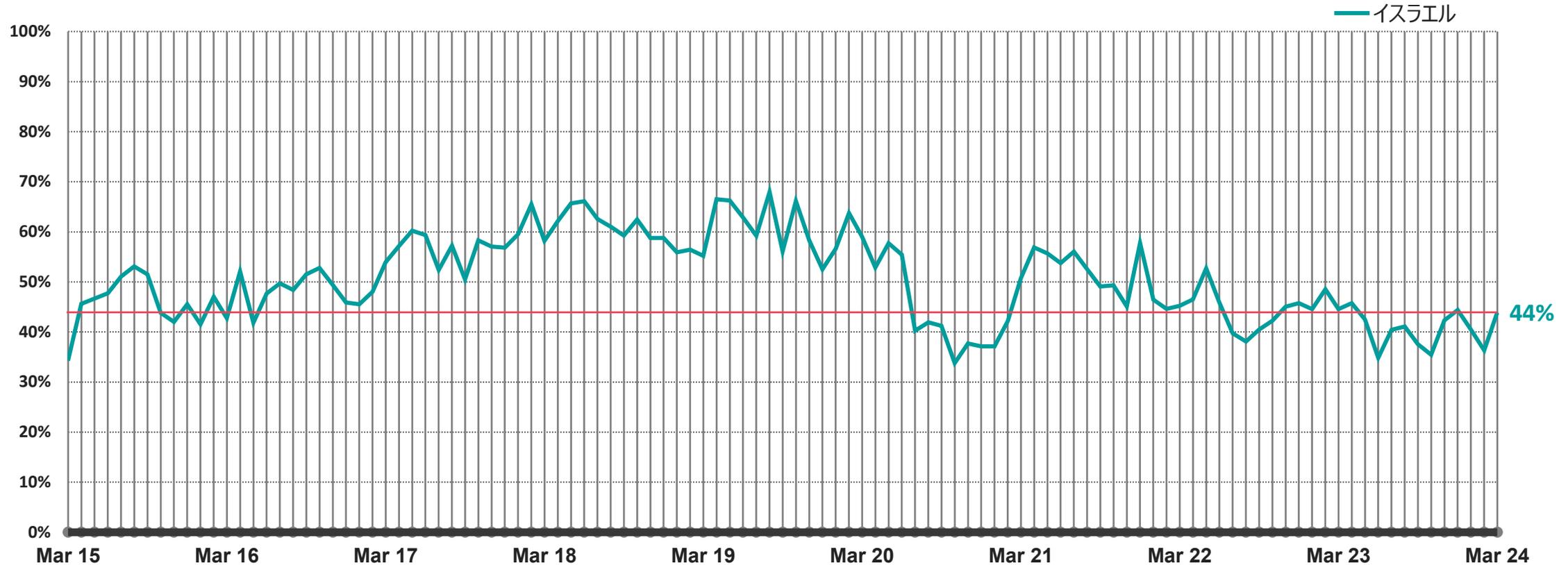
ベース：英国の16～74歳成人約1000人の代表サンプル。2013～2024年に調査。

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

現在の経済状況：イスラエル

イスラエルの3月のスコアは先月から回復し、8ポイント上昇している。

Q 現在の自国の経済状況をどう評価しますか？
（「非常に良い」「ある程度良い」の割合）



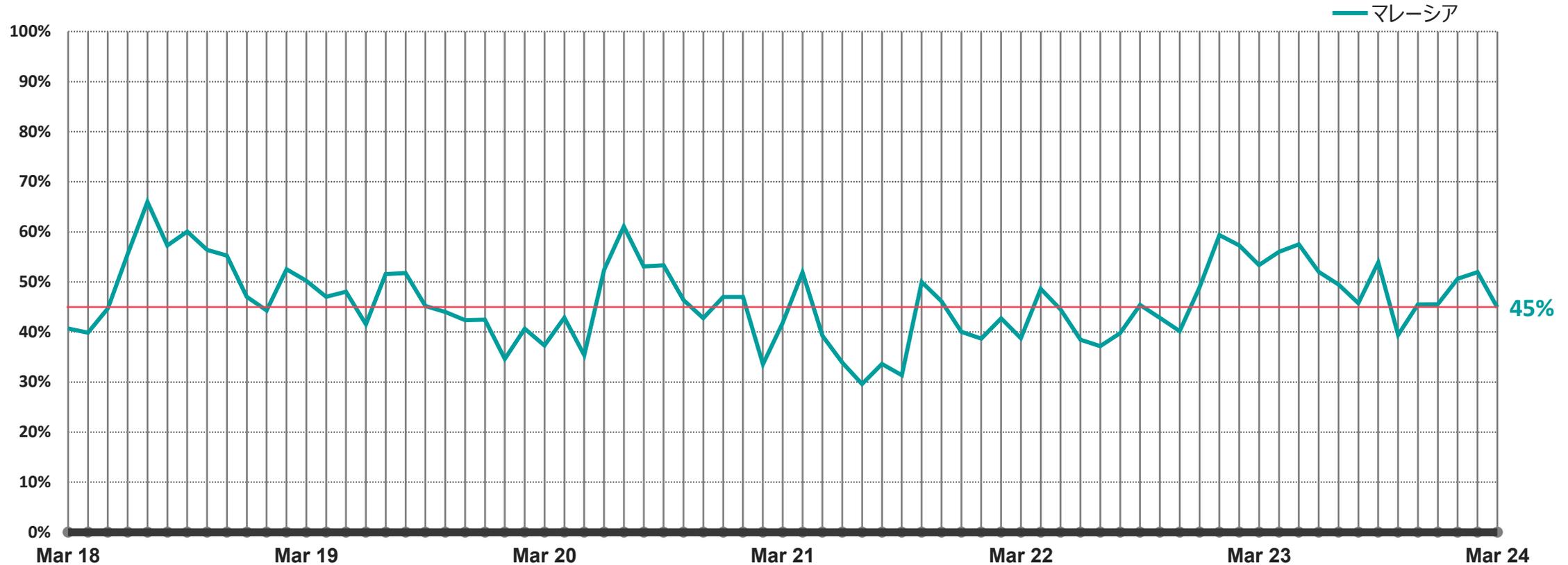
ベース：イスラエルの16～74歳成人約500人の代表サンプル。2013～2024年に調査。

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

現在の経済状況：マレーシア

マレーシアの「良い」スコアは
今月7ポイント低下している。

Q 現在の自国の経済状況をどう評価しますか？
(「非常に良い」「ある程度良い」の割合)



ベース：マレーシアの16～74歳成人約500人の代表サンプル。2013～2024年に調査。

出典：イプソスグローバルアドバイザー調査。グローバルスコアは、世界各国平均。詳しくは調査手法を参照。

調査方法

この29カ国のグローバルアドバイザー調査は、2024年2月23日から2024年3月8日にかけて、カナダ、イスラエル、マレーシア、南アフリカ、トルコ、米国の18～74歳、インドネシアとタイの20～74歳、シンガポールの21～74歳、その他の国の16～74歳の成人23,761人を対象に、イプソスのオンライン調査プラットフォームで実施された。

「世界各国平均」は、調査を実施したすべての国の平均値である。各国の人口規模に合わせて調整されておらず、総合的な結果を示すものではない。

サンプルは、オーストラリア、ベルギー、ブラジル、カナダ、フランス、ドイツ、英国、イタリア、イスラエル、日本、メキシコ、スペイン、スウェーデン、米国の各1000人以上、アルゼンチン、チリ、コロンビア、ハンガリー、インド、インドネシア、マレーシア、オランダ、ペルー、ポーランド、シンガポール、南アフリカ、韓国、タイ、トルコの各500人以上からなる。

アルゼンチン、オーストラリア、ベルギー、カナダ、フランス、ドイツ、英国、ハンガリー、イタリア、日本、オランダ、ポーランド、韓国、スペイン、スウェーデン、米国のサンプルは、その国の75歳未満の一般人口を代表しているとみなすことができる。

ブラジル、チリ、コロンビア、インド、インドネシア、マレーシア、メキシコ、ペルー、シンガポール、南アフリカ、タイ、トルコのサンプルは、一般人口に比べて、より都市部に住み、教育水準が高く、裕福である。これらの市場の調査結果は、人口のうち、より「コネクテッド」な層の意見を反映していると言えるだろう。

人口統計のバランスをとり、サンプル構成が最新の国勢調査データを反映した成人人口の構成比になるよう、ウェイト付けが行われている。

イプソスのオンライン調査の精度は、1,000人の世論調査は±3.5パーセントポイント、500人の世論調査の場合は±5.0パーセントポイントの信頼区間を用いて計算されている。イプソスの信頼区間の使用に関する詳細は、イプソスのウェブサイト参照のこと。

パーセンテージの合計が100にならない場合、または「差」が実際より+/-1多いまたは少なく見える場合は、四捨五入、複数回答、「わからない」または未回答の除外による可能性がある。

本調査結果の公表は、現地の規則に従う。